

# NEWS

吉村敏男県議会活動報告  
Vol.27

風を通そう!

福岡県議会議員  
〔飯塚市・嘉穂郡(桂川町)選挙区〕

吉村敏男

よしむらとしお



九州の自立を考える会にて(2月27日)

## 2013年度予算8年連続増、 1兆6,317億円過去最大規模 ～借金も3兆3,266億で予算の2倍を超える

2月定例県議会は2月26日から3月28日まで31日間の日程で開催され、8年連続増で1兆6,317億円と過去最大規模となった2013年度一般会計当初予算案や2012年度一般会計補正予算案、県議に支給されている政務調査費を「政務活動費」と改称し、経費の範囲などを定める改正条例案など計91議案を原案どおり可決し閉会しました。今回の予算はデフレ脱却を目指す政府の積極的な財政出動を背景に、景気・雇用対策や防災・減災を柱とした公共事業に重点を置いたことが特徴です。しかし、借金である県債残高は増加し続けており、2013年度末で予算規模の2倍強に当たる3兆3,266億円(県民1人当たり約66万5千円)と、こちらも過去最高額となり県財政は危機的状況にあります。



## 県内の産廃処分場を掘削調査(2013年度予算に計上)

一方、今回の予算で特筆すべきことは、現在県内には19ヶ所の安定型最終処分場がありますが、違法廃棄物の投棄がないか、産業廃棄物処分の許可が5年間で更新されるのに合わせて、更新前に掘削調査を実施する予算2,700万円が計上されたことです。これまで県は廃棄物処理法に基づき、処分場の廃棄物を目視で確認したり、水質を調べたり、立ち入り検査を定期的に行い、不法投棄が判明した場合には掘削調査を行っていました。今後は定期的かつ予防的に処分場を掘り起こし、許可外の廃棄物の投棄の有無を調査し、違法な廃棄物が見つければ、業者に改善命令などの指導を行い、従わなければ許可取り消しなどの処分を下すこととなります。何より廃棄物

事業者に対する「不正はできない」という心理的圧力が強まることとなります。平成25年度は4ヶ所で調査を実施します。

さらに現在は操業を終了または停止しているものの地域の住民から不法投棄を指摘されたりしてトラブルになったり問題が長期化している処分場が県内には12ヶ所ありますが、それらの現場を調査したり、県が設置する専門家委員会の指示や決定により不法投棄現場を掘削するなどの予算として4,644万円が計上されています。定期掘削や事実上閉鎖された処分場の掘削費の計上はこれまで全国的に例がなく特筆されるものです。

## 今回の施策は飯塚市内住の産廃問題が発端

本県は内住の処分場における不法投棄問題で、「環境保全措置を業者に命じるよう県に義務付ける判決」が確定したことを受け、昨年9月の県議会でポーリング調査等の費用として、環境部としては過去最高額となる約1億6,000万円の補正予算を計上しました。現在、調査が終了し、県は業者に対する措置命令を検討しています。今回の全国に例を見ない県による稼働中の処分場の定期掘削調査や、すでに閉鎖されたものの不法投棄が疑われる処分場の掘削調査等の費用が計上されるなど、県が産廃問題に対するこれまでの対応を大きく転換させるきっかけとなったのは、やはり内住の産廃処分場の不法投棄をめぐる住民のみなさんの11年に及ぶねばり強い行動と裁判勝訴が大きな影響を与えたことはまぎれもない事実です。



民主党・県政クラブ県議団は、麻生知事時代から一貫して県の産廃行政の転換と県内各地で多発している産業廃棄物処分場をめぐる住民の問題提起と真摯に向き合い、本気で解決することを求めて来ました。

今回の予算措置は小川知事の県民の目線に立つ政治姿勢として一定評価できるものです。



△内住産廃処分場現地調査(2月25日)

## 会派で内住産廃処分場を視察

民主党・県政クラブ県議団は昨年7月の内住の産廃処分場裁判で県取訴が確定した後、9月、12月と会派の代表質問でポーリング調査の進行状況や業者に対する措置命令の時期などを質してきましたが、2月議会の代表質問にあたり、2月25日会派として現地を視察し3月5日に代表質問を行いました。

質問要旨は次のとおりです。

Q 現地調査の進捗及び調査結果について

A 現地調査は昨年12月末までに終了予定であったが、原告や地元住民の方々からの要望や専門委員会の指示により、ポーリング調査及び検査項目を追加しており、全ての調査結果は3月下旬までに判明する予定。

これまで、廃棄物埋立区域内の滞留水の一部から安定型最終処分場の管理の適否を見るための水質基準を上回るBODや鉛等が検出されている。

原告の井戸水は、水道法の基準に照らして飲用に適する結果となっており、現在のところ、専門委員会から処分場の影響は周辺に及んでいないとの見解を得ている。

Q 措置命令の発出時期について

A なんとか年度内に発出すべく調査を進めてきたが、追加調査に時間を要し、結果が3月下旬となることから、年度内の発出は厳しい状況となっている。

適切な措置命令とすることが重要であり、全ての調査結果が判明した後、できるだけ早く専門委員会の審議を経て、措置命令を発出したい。

Q 周辺住民の健康不安への対応について

A 原告の井戸水については、これまでの調査結果に基づき、現在のところ、専門委員会から処分場の影響はないとの見解をいただいている。

廃棄物埋立区域内に存在する滞留水の一部から、安定型最終処分場の管理の適否を見るための水質基準を上回るBODや鉛等が検出されている。

今後判明する調査結果も踏まえ、将来にわたって生活環境保全上の支障のないよう、措置命令の内容を決定していきたいと考えている。

Q 稼働中の安定型最終処分場の箇所数などについて

A 稼働中の安定型最終処分場は、現在19ヶ所。過去に措置命令、改善命令及び行政指導を行っているものの長期化している件数は12件。

Q 稼働中の安定型最終処分場の掘削調査について

A 原則として、産業廃棄物処分許可の5年間の有効期間満了の6月前までに実施する予定。

この考えに基づき、来年度は4ヶ所の掘削調査を実施することとしている。

Q 長期化している産廃事案について

A 事案により内容や状況が異なることから、まず専門家委員会を設置し、これまでの知見を踏まえ、どのような調査を行う必要があるか検討する。

関係市町村の協力が不可欠であるため、専門家の意見を踏まえ、市町村と十分協議した上で慎重に選定し、着手していきたいと考えている。

## 2011年5月国内で初めて世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の炭坑記録画の保存活用について

Q 山本作兵衛氏の炭坑記録画の作品点数とその所在について

A (教育長) 田川市によると、平成24年3月31日現在、県内には1,084点の記録画が存在。

主な所在は、田川市石炭・歴史博物館に608点、嘉麻市碓井郷土館に128点、飯塚市歴史資料館に25点、個人所有が272点、これ以外にも51点が所在。

Q 「嘉麻市コレクション」の県指定文化財への指定について

A (教育長) 県指定有形民俗文化財である山本作兵衛炭坑絵画資料584点は、石炭産業現場の風俗や生活を詳細に描いた唯一の体系的な記録絵画で、歴史・民俗資料としての価値が極めて高い。

「嘉麻市コレクション」の指定については、描かれている内容や構図を田川市所有の県指定有形民俗文化財と比較検討する必要がある。

Q 「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛氏の炭坑記録画の保存・活用及び田川市への支援について

A 山本作兵衛氏の炭坑記録画等は、「九州・山口の近代化産業遺産群」とともに、筑豊地方が日本の近代産業国家仲間入りの原動力となったことを示す。

この炭坑記録画等は、筑豊地域の歴史を示す貴重な地域資源であり、将来にわたり適切に保存・管理していくことは大変重要だと考えている。

保存については、田川市において、九州国立博物館の協力の下、炭坑記録画等の劣化損傷状況を把握するための調査が行われている。質の高い保存が図られるよう専門的な助言や技術的な支援を行っていく。

施設については、田川市において施設の設置や運営に係る経済性を総合的に検討されるべき。

現在、既存施設の拡充を含め検討がなされていると承知しており、今後の取組み状況を見た上で、支援の在り方について検討していきたい。

その他の事項についても質問しています。詳しくは県議会ホームページをご覧ください。  
<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/>

## 県営筑豊緑地テニス場新築改修工事進む

アジア・オセアニア地区で唯一の国際車いすテニススーパーシリーズ(SS)飯塚大会が開催されている県営筑豊緑地コートの新築・改修工事は、2億7,000万円の予算で昨年秋に着工しました。現在、工事は最終盤に入り、5月29日(水)～6月2日(日)の第29回大会に備え、完成間近となっています。

これまでの「イヅカ方式」として世界から評価された地元の人情とマンパワーの運営力に加え、今ある5面のコートが国際規格に改装され、2面が新築されます。飯塚市営コートも含めハード面ソフト面共に充実し、スーパーシリーズとしてどこにも負けたい大会として引き続き世界から高い評価を得られたらいいですね。



△新設屋外2面コート



△既設屋根付2面コート



△既設屋外3面コート

# 鯉田中線架橋工事進む(平成28年度全通)

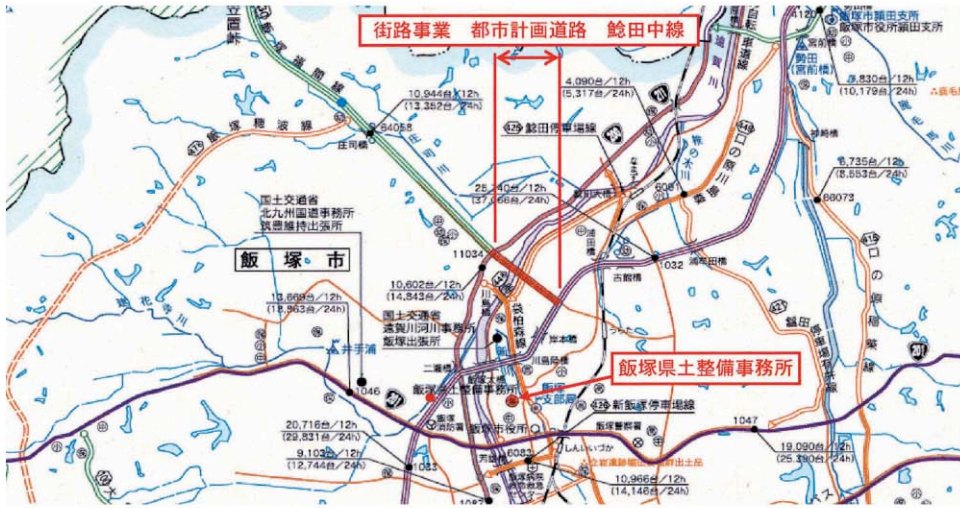
## 【事業の概要】

鯉田中線は、国道200号BP、国道200号を結び飯塚市の放射道路の一部を形成し、また、九州自動車道若宮ICにアクセスする幹線道路であり、飯塚都市圏はもとより沿道地域の発展に大きな役割を果たす道路です。現在急ピッチで工事が進められています。2013年度は橋の上部工の建設費として約8億円が計上されています。

本整備により、飯塚都市圏の交通の円滑化が図れると同時に、若宮ICや隣接するトヨタ自動車九州工場へのアクセスが向上し、筑豊経済の活性化に大きく寄与することになります。



【完成イメージ】



## 【鯉田中線の計画緒元】

- ・延長 L=1,070m
- ・幅員 W=23m~27m(4車線)
- ・計画交通量 12,800台/日(H42)
- ・事業期間 平成13年度~28年度
- ・総事業費 9,310百万円
- ・進捗率 71.9%(平成24年度未見込)

## 【事業箇所図】

# PHOTO 吉村敏男 GRAFFITI



△ 警察委員会、県警音楽隊とカラーガード視察(2月13日)



△ 警察委員会、小郡警察署視察(2月13日)



△ 嘉麻市立碓井郷土館視察(2月19日)



△ 田川市立石炭歴史博物館視察(2月20日)



△ 県営伊良原ダム工事現場視察(2月20日)



△ みやこ町獣肉処理加工場視察(2月20日)

# 吉村敏男 事務所

〒820-0082 飯塚市若菜52-1  
Tel.0948(23)1210 Fax.0948(25)6071

## お願い

個人情報保護法が施行され、個人情報の管理が厳しく制限されるようになりました。その結果、事務所として冠婚葬祭における祝電、弔電などが把握できず、大変失礼をいたしております。友人、知人、親族等の冠婚葬祭等がございましたら、ぜひ、御一報くださいますようお願いいたします。